

令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【2年目】

P T A名	静岡県立東部特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立東部特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input checked="" type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	90人

1. 使用状況

寄贈物品名	スウィング遊具
使用学年及び人数	小学部1～6年 38人
使用頻度	必要に応じて大教室に設置し、学習単元が終了するまで常設する。
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・室内に設置し、自立活動、あそびの指導、生活単元学習で活用する。 ・必要に応じて屋外に運び活用する。 ・休み時間の余暇活動で利用する。
物品の使用による変化や効果	<p>学習の単元の中で繰り返して利用することで、児童は恐怖心がなくなり、遊具に乗って揺れることに慣れ、「もっとやりたい!」という気持ちを表すことができるようになった。また、車いすで自走して、自分から遊具まで移動する姿も見られるようになった。児童は、揺れる遊具で不安定な動きに慣れることで、平衡感覚を高め、感覚統合で大切なバランス感覚を養うことができている。余暇活動では、遊具の周りにたくさんの児童が集い、交流の場になっている。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>スウィングサポートフレームの教室間移動をせずに、大教室に設置されている天つり金具から直接スウィングをつり下げて利用する。毎年スウィングを増やしていき、サポートフレームに異なるスウィングをつるし、多様にアレンジする。児童の興味、関心をさらに喚起し、体の感覚を協調させるように促し、感覚統合をねらう。</p>
その他希望や所感など	<p>他のスウィングを購入してもらい、さらに楽しめる教具になった。学習内容や児童の実態や学習内容に応じて、スウィングを付け替え活用できている。</p>

2. 活用の様子



寄贈いただいたスウィング遊具（右）と新たに購入したスウィング（左）を並べて、天つり金具からつり下げて活用している。



教師が「次、やりたい人？」と声を掛けると、児童は、手を打ったり、挙手したりして、やりたい気持ちを表す。
車いすを自走し、スウィングに近寄ってくる児童もいる。

天気の良い日は、屋外に設置して学習している。
座位がとりにくい児童は、補助具にクッションチェアを固定してつるしている。